

## 令和2年度 第2回みんなで支える森林づくり南信州地域会議

開催日時 令和3年3月5日（金）16：00～17：00

開催場所 長野県飯田合同庁舎講堂

出席委員 飛矢崎委員（座長）、飯島委員、太田委員、佐々木委員、原委員

事務局 丹羽地域振興局長、秋山林務課長、阿部林務係長、添田林産係長、塚平普及係長、  
保科主任森林経営専門技術員ほか4名

### 【会議事項】

(1) 令和2年度森林税活用事業の実績見込等について

（佐々木委員）

里山整備事業やライフライン保全対策事業について、計画に対する実績見込が落ち込んでいる印象を受けるが、その理由はどういったところにあるのか。また、事業実績の一覧表に計画値がないが、これも入れたほうがよいと思われる。

（事務局）

ライフライン保全対策事業に関しては、計画をしても、それが必ず予算化されるものでないといったことが背景にある。また、防災・減災事業についていえば、計画はしたものの、森林所有者の承諾が得られず実施にまで至っていないといったことがあると考えられる。

（太田委員）

現地視察の感想として、写真より現物を見たほうが分かりやすく、よかった。森林税が多岐に渡り活用されていることが確認できた。森林が荒れていたりすると、リニア開通後、来県が予想される県外客に対し、大きなイメージダウンとなりかねない。また、テレワークを念頭に、都市圏から人を呼び込むことを考えれば、森林整備は非常に重要な意義を持つといえる。

（原委員）

広報については種々、工夫いただいたと思う。ただ、こうした広報に対する県民の反応がわかれば更により。その観点からすれば、紙媒体だけでなくSNSなどの活用も検討しては如何。

また、喬木村に限ってみても、里山整備利用推進協議会の数が一気に増えていることに驚いた。本日の現地視察でも伺った阿智村のように、行政ばかりでなく地域住民も一緒になって取り組むことができれば、事業に一体感や継続性が生まれる。地域により協議会の

数に偏りがあるようにもみえるので、是非、地域全体に広めていってほしい。

(事務局)

喬木村にあっては、村と地域振興局とで地域住民に働きかけを行ってきた成果が現れてきていると認識。今後も、可能な限り地域の皆さんの力を活かすということを念頭に、活動を進めてまいりたい。

(原委員)

こうした制度があるということ由市町村に浸透させ、自分たちが納めた森林税を自分たちで使うということ、またそれを通じ、地域が変わっていくということを体感できるようにしていってほしい。

## (2) 令和3年度森林づくり県民税活用事業について

(飯島委員)

現地を視察し、里山整備の活動に対する支援がなされていることを実感。こうした、県民が直接事業に関わるができるようなメニューが充実していくとよい。

## (3) その他

(飯島委員)

生憎の空模様の下での現地視察であったが、参加できてよかった。今後も引き続き、森林税について留意していきたい。

(太田委員)

森林税が、県民にとって身近なところで使われているということがよく理解できた。

(佐々木委員)

森林税活用事業について、森林組合の職員として今後も県と協力してまいりたい。

(原委員)

森林税の活用に関し、県が制定した脱炭素条例の観点もあってよいのではないかと。2050年のカーボンゼロを目指し、海洋プラスチックごみをなくしていくという取組を進めていくなかで、ほとんどの森林税活用事業はそれにつながっていく。このことからすれば、森林税のPRも、林務部だけではなく、脱炭素という県全体の施策の観点からアプローチしたほうがより伝わりやすいのかもしれない。

(飛矢崎座長)

前回の会議で課題とされた森林税のPRについては、よく取組が進められた。また、事業内容そのものに関しても、行政ばかりでなく地域の皆さんにもしっかり取り組んでいただいたと思う。本日、委員から頂戴したご意見はきわめて貴重なものと認識。観光県たる本県において、行政と県民が一緒になって森林づくりを進めているということが県外客に

も認識できるようになればよい。ことさらに SDG'S という言葉を用いずとも、こうした日々の活動が、そうしたことにつながっていくということが体感できるようになればと思っている。今年度はコロナの影響で十分な活動が出来なかったが、来年度に向け、森林税の有効活用になお一層ご配慮をいただきたいし、我々も尽力をしていきたい。

(了)